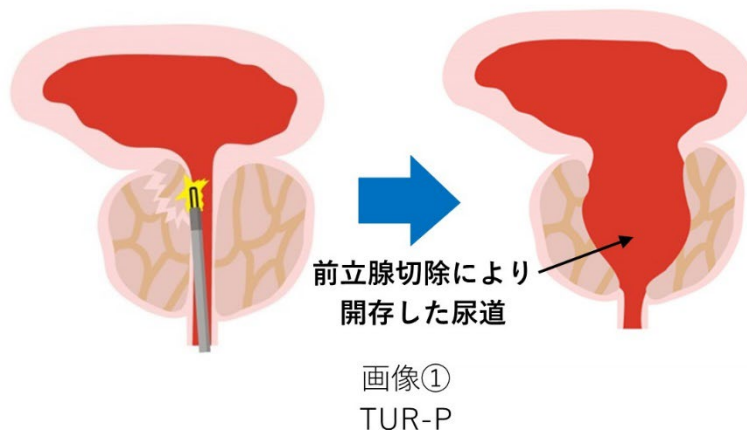


## 前立腺肥大症の低侵襲手術 “WAVE 治療”

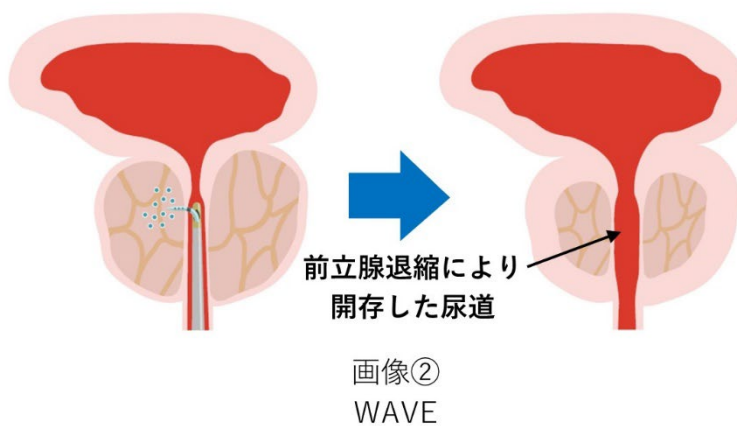
前立腺肥大症とは年齢とともに肥大した前立腺が尿道や膀胱を圧迫することによって、様々な排尿障害が起こる病気です。治療は先ず薬物治療から開始しますが、それでも症状の改善が乏しい場合や、尿道カテーテルといった管の挿入による助けを得ないと排尿できない場合には手術治療をお勧めしています。一般的に施行されている手術は経尿道的前立腺切除術（以下 TUR-P）です（図①）。



図①

尿道から内視鏡を挿入し、先端のループ状の電気メスで前立腺を切除する方法です。腰椎麻酔で行われ、手術時間は 30～60 分、入院は 5 日程度となっています。前立腺を物理的に切除するので術後の排尿症状の改善が高いのが特徴で、術後挿入した尿道カテーテルを抜去して退院します。一方で高齢者や認知機能障害のある方、身体機能が低下している方、抗血小板薬（血液サラサラ薬）内服中断が困難な方にはややハードルの高い一面もあります。

そこで当院で採用しているのが 2022 年に保険適応になった経尿道的水蒸気治療（WAVE Water Vaper Energy therapy 以下 WAVE）治療です。尿道から内視鏡を挿入し、肥大した前立腺に水蒸気を注入、その熱を利用して前立腺組織を退縮させる低侵襲な治療方法です（図②）。



図②

一般的には腰椎麻酔で行いますが、全身麻酔でも対応可能で、手術時間は約 10 分、入院は 3 日となっています。

一方で前立腺組織が退縮するまでには数週～1 ヶ月の時間を要するため、術後挿入した尿道カテーテルは留置のまま退院し、手術 1 ヶ月後に外来で抜去するまで待たなくてはなりません。また物理的に前立腺を切除するわけではないので排尿症状の改善効果は TUR-P と比較すると劣る傾向にあります。身体機能低下のある方の場合、膀胱機能の低下も認めることから、尿道の開存が充分得られても症状が改善しないことも多いのが現状です。

当院としては手術治療としては先ず TUR-P を第一選択としていますが、以下のように TUR-P が困難な方に WAVE 治療を薦めています。

- 適応)
- ・TUR-P 手術の合併症の危険性が高い方
  - ・高齢、もしくは認知機能障害のため術後せん妄、身体機能低下の危険性が高い方
  - ・少しでも入院期間を短縮したい方
  - ・抗血小板薬の休薬が難しい方

上記の問題があり長期尿道カテーテル留置を余儀なくされている方に対して、低侵襲な WAVE 治療は良い適応と考えています。

【泌尿器科診療部長 上井 崇智】

